

## 目的を明示した授業群構築に関する提案

### ～「佐渡の地域活性化」をテーマとしたモジュール～

高原尚志<sup>1\*</sup>

現在、多くの大学でモジュールをカリキュラムに組み込んだ教育が行われている。ここで言うモジュールとは、短期の教育プログラムで、あるテーマのもとに集められた授業科目群のことで、2015 年に出された文部科学省の中教審の議事録である「新たな高等教育機関の教育内容・方法について（議論のためのメモ）」においても、社会人の学びなおし、いわゆるリカレント教育やキャリア教育、職業教育においても、モジュールを活用すべきであるとの意見が出されている。リカレント教育の重要性が指摘されている現在、時間に制約がある社会人にとって、短期間で設定されたテーマについて学ぶことができるモジュールを活用した教育は大変重要なものとなっている。そこで本稿では、学生が卒業研究として行ってきた個々の研究を「佐渡の地域活性化」というテーマでまとめることによって、過去の研究群をひとつのモジュールとして組み立てることを試行したので、その方法について示す。本稿で示す方法が、モジュール制を導入する場合の参考となることを期待する。

**キーワード：** 世界遺産登録、佐渡、地域活性化、リカレント教育、教育モジュール

#### はじめに

社会人の高等機関での学び直し、いわゆるリカレント教育の推進がうたわれている現在、多くの大学でカリキュラムをより細かい単位で区切った、いわゆる教育モジュールを組み込んだ教育が行われている。長崎大学では、従来の教育とモジュール教育の違いを説明し、モジュールについて「現代的な課題となっているテーマのもとに集められた授業科目群」と述べている<sup>1)</sup>。明治大学では、80 種類ものモジュールを用意している<sup>2)</sup>。東京外国語大学では、発音、会話、文法など言語に関するモジュールを用意している<sup>3)</sup>。福島大学では、教員養成のためのモジュールを用意している<sup>4)</sup>。岡山大学では、モジュールを更に細かい単位であるユニットに区切ったユニット・モジュール制を導入している<sup>5)</sup>。2015 年に出された文部科学省の中教審の議事録である「新たな高等教育機関の教育内容・

方法について（議論のためのメモ）<sup>6)</sup>」では、モジュールを短期の教育プログラムと位置づけ、リカレント教育やキャリア教育、職業教育においても、モジュールを活用すべきであるとの意見が出されている。時間に制約がある社会人にとって、短期間で設定されたテーマについて学ぶことができるモジュールを活用した教育は大変重要なものとなっている。大学の役割のひとつとしてリカレント教育が求められている現在、カリキュラムを教育モジュールに分けることの重要性はますます大きくなっており、今後も更に大きな役割を果たすものと考えられる。著者らは、「佐渡の地域活性化」という統一したテーマで学生の卒業研究を行ってきた。そこで、各年、各自の個々の研究を「佐渡の地域活性化」というテーマにまとめることによって、過去の研究群をひとつのモジュールとして組み立てることを試行した。具体的には、「佐渡の地域活性化」というモジュールを「佐渡の世界遺産登録」

<sup>1</sup> 新潟県立大学国際地域学部国際地域学科

\* 2018 年 12 月 25 日 死去

利益相反：なし

と「その後の観光への活用」という2つのユニットに分け、それを統合する形で1つのモジュールを形成する方法をとった。本稿で示す方法が、今後カリキュラムにモジュールを導入する場合の参考になることを期待する。

## 方法

### 授業環境

本研究は、著者が所属する新潟県立大学国際地域学部で4年時に配当されている必修科目で、通年科目である「卒業研究」(4単位)とその卒業研究の準備のために行う「プレゼミ」を用いて行った。「プレゼミ」は、3年時に行うものであるが、カリキュラム上の授業ではなく、単位も配当されておらず、あくまで教員と学生の自主的なゼミナールという位置づけである(図1)。

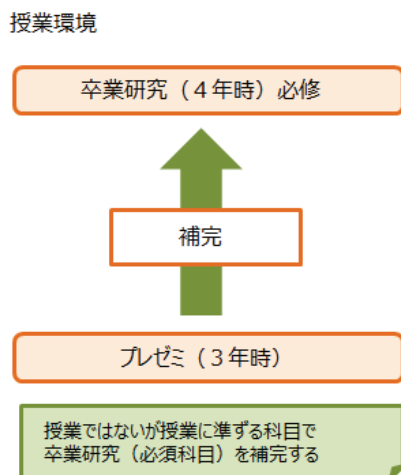


図1 本研究の授業環境

Figure1 Environment of Lectures in This Research

この「卒業研究」と「プレゼミ」を活用して、学生が「佐渡の地域活性化」に関するテーマでの研究を行った。

### 実際に行った研究

実際に行った具体的なテーマは以下の通りである。

#### 研究1： 世界遺産登録に向けてのプロセスの研究

吉田ら<sup>7)</sup>は、世界遺産への登録プロセスや世界遺産の現状など世界遺産登録に向けての基本的な知識を研究した。具体的には、世界遺産の種類や世界遺産の現在の世界的な分布、年ごとの推移と現在の分布に至った理由などについて考察を深めた。

#### 研究2： 佐渡にインバウンドを呼び込むための研究

小嶋ら<sup>8-10)</sup>は、佐渡金銀山の世界遺産登録を目指して、海外からの旅行者に佐渡の価値を知ってもらうための方策を研究した。また、世界遺産登録後のインバウンドを呼び込んだ観光による地域活性化という観点からも研究を進めた。

#### 研究3： 特色ある佐渡を作るための将来に向けての研究

藤井ら<sup>11-12)</sup>は、観光にとって重要な交通システムに着目し、佐渡を4つの地区に分けて、その地区の特色にあった交通システムの導入について、他の地方の事例などを踏まえながら研究した。具体的には、電気自動車の導入やレンタサイクルの活用など、対象地区にあった交通システムについて検討した。

#### 研究4： 関連地域についての観光研究

佐渡にインバウンドを呼び込むための参考にするため、研究2の関連研究として、インバウンドからの人気が高い他の観光地についての研究を行った。具体的には、井上ら<sup>13-14)</sup>や高辻ら<sup>15)</sup>が各種旅行サイトでもインバウンドからの評価が上位に属する金沢の研究を行い、千代ら<sup>16)</sup>がインバウンドの呼び込みに成功しているといわれる高崎の事例について研究を行った。

#### 研究5： 世界遺産登録に向けて、今後佐渡が取り組むべき課題の研究

大橋ら<sup>17)</sup>は、今後佐渡が世界遺産登録を目指すに当たって、必要な要件について、具体的な検討を行った。これにより、今後取り組むべき課題を明確にした。

#### 研究6： 登録済み世界遺産との比較研究

上野ら<sup>18)</sup>は、既に世界遺産登録を果たした地域について、世界遺産登録を実現するまでの取り組みや登録が観光に与えた影響など登録後の状況について検討を重ねた。これにより、佐渡金銀山の世界遺産登録に向けての必要事項を明らかにすると同時に、観光をはじめとする世界

遺産登録がもたらす地元への影響などについて考察を深めた。

なお、著者らは、上記の一連の研究について、文献<sup>19)</sup>にまとめた。

## モジュールへの展開

上記の今まで行ってきた個別の研究を「佐渡の地域活性化」という統一したテーマでまとめ、ひとつのモジュールとすることを試行する。ところで、本稿でいうモジュールとは「短期の教育プログラムで、統一したテーマのもとに集められた授業科目群」であることは前にも述べた通りであるが、モジュールのテーマを実現するために更に細かい小目標を設定して集められた授業群のことをユニットと呼び、岡山大学などで実践されている<sup>5)</sup>。ユニットとモジュールの関係を図2に示す。

### ユニット・モジュール制イメージ

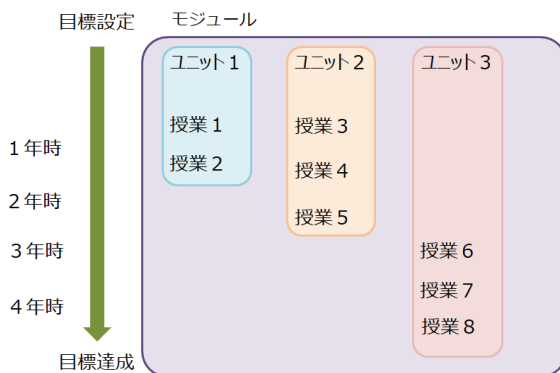


図2 ユニットとモジュールの関係  
Figure2 Relationship between Units and Modules

これを本稿の事例（「佐渡の地域活性化」）に当てはめると図3のようになる。

### 研究（モジュール）の流れ

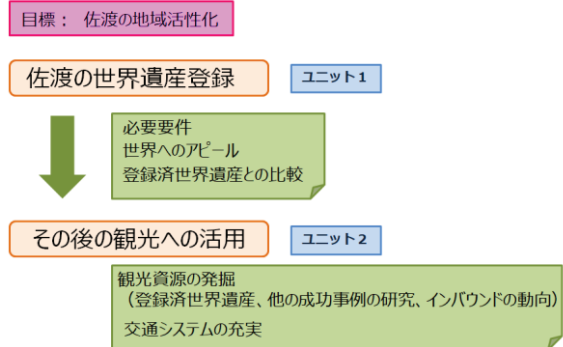


図3 モジュールとユニット（佐渡の場合）

Figure3 Modules and Units (Case of Sado)

「佐渡の地域活性化」を目標に集められた科目群（モジュール）を「佐渡の世界遺産登録」と「その後の観光への活用」という2つの小科目群（ユニット）に分けて進めて行くというイメージである。

まず今までの研究を時系列という観点からまとめたものを図4に示す。

### 時系列

目標：佐渡の地域活性化	
2016	研究1：世界遺産登録に向けてのプロセスの研究
2016	研究2：佐渡にインバウンドを呼び込むための研究
2016	研究3：特色ある佐渡を作るための将来に向けての研究
2016	研究4：関連地域についての観光研究（金沢）
2017	研究4：関連地域についての観光研究（金沢／高崎）
2018	
2018	研究5：佐渡の世界遺産登録に向けての研究
2018	研究6：登録済世界遺産との比較研究

図4 時系列という観点からのまとめ

Figure4 Perspective from Timeline

次に、今までの研究をユニット単位でまとめたものを図5に示す。

## ユニット（内容） 目標：佐渡の地域活性化

## ●世界遺産登録ユニット

- 研究1：世界遺産登録に向けてのプロセスの研究 2016  
 研究5：佐渡の世界遺産登録に向けての研究 2018  
 研究6：他の登録済み世界遺産との比較（群馬・富岡製糸場） 2018

## ●観光ユニット

- 研究2：佐渡にインバウンドを呼び込むための研究 2016  
 研究3：特色ある佐渡を作るための将来に向けての研究 2016  
 研究4：関連地域についての観光研究（金沢／高崎／会津） 2017  
 研究6：他の登録済み世界遺産との比較 2018

図5 ユニット（内容）によるまとめ

Figure5 Perspective from Units (Contents)

更に、図5で示した世界遺産登録と観光の2つのユニットと図4で示した時系列でのまとめを合わせたものを図6に示す。

## ユニット（時系列）

- 世界遺産登録  
 ●観光

2016 目標：佐渡の地域活性化

- 研究1：世界遺産登録に向けてのプロセスの研究  
 研究2：佐渡にインバウンドを呼び込むための研究  
 研究3：特色ある佐渡を作るための将来に向けての研究  
 研究4：関連地域についての観光研究（金沢）

2017

- 研究4：関連地域についての観光研究（金沢／高崎）

2018

- 研究4：関連地域についての観光研究（会津若松／新潟）  
 研究5：佐渡の世界遺産登録に向けての研究  
 研究6：他の登録済み世界遺産との比較（群馬・富岡製糸場）

図6 時系列とユニットのまとめ

Figure6 Perspective from Timeline and Units

まとめとして、上記の6つの研究をユニット・モジュール化するための授業とその授業の概要を表1で提案する。

表1. 研究と授業の対応表

Table1 Correspondence Table of Research and Lecture

研究	授業名	概要
研究1：世界遺産登録に向けてのプロセスの研究	世界遺産概論	世界遺産とは何かや世界遺産登録を行うためのプロセスに関する知識について修得する
研究2：佐渡にインバウンドを呼び込むための研究	観光事例演習A（インバウンドの呼び込み）	インバウンドの呼び込みをテーマとして、成功事例などについて考察する
研究3：特色ある佐渡を作るための将来に向けての研究	地域活性化事例演習（佐渡）	佐渡を事例として、地域の活性化について多角的に考察する
研究4：関連地域についての観光研究	観光事例演習B（地域の事例）	観光での成功事例について、その取り組みなどについて分析する
研究5：佐渡の世界遺産登録に向けての研究	世界遺産登録研究	世界遺産登録ユニットの総仕上げとして、今までの授業で修得した知識を用いて、佐渡の世界遺産登録に向けての要件などを研究する
研究6：他の登録済み世界遺産との比較	地域活性化研究	観光ユニットと佐渡の地域活性化モジュールの総仕上げとして、他の登録済み世界遺産を参考に世界遺産登録のための要件とその後の観光などについて研究する

また、上記授業の相関関係を図7に示す。

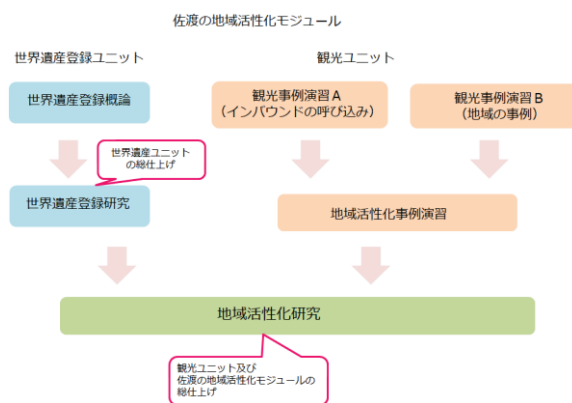


図7 授業とユニット、モジュールとの関係

Figure7 the Relationship between Lectures and Units and Module

## 結果と考察

上記のように、「佐渡の地域活性化」という目標をもとに、そのきっかけとしての「世界遺産登録」そして登録後の「観光による地域活性化」



という2つの柱を研究の対象とした。各ユニットでは、以下のポイントで個々の研究を行った。

○「世界遺産登録」ユニット

佐渡の地域活性化のきっかけとして、「世界遺産登録」を考え、登録を実現するための要件などを検討する。

- ・世界遺産とは  
世界遺産の種類と世界遺産に類するものの判別
- ・世界遺産登録へのプロセス  
世界遺産として UNESCO に登録されるまでの様々な手続き（国内選考など）
- ・世界遺産の現状と推移  
世界遺産の世界地図上の分布や分布の偏りを解消するための取り組みとその結果など
- ・登録済み世界遺産  
登録までの取り組みや登録後の状況など
- ・佐渡の世界遺産登録に向けての要件  
登録済み世界遺産との比較や世界の人々に向けての世界的価値の把握

○「観光」ユニット

佐渡の世界遺産登録に向けて、世界の人々にその価値を伝えるための方策を考えると同時に世界遺産登録後の観光への活用方法を考える。既に世界遺産登録がなされている地域では、登録直後はよいが、数年たつと登録前よりもかえって観光客が減少してしまったというところも少なくない<sup>20)</sup>。また、一度世界遺産を訪れると、満足してしまつて、リピータとして何度も訪れてもらえないという課題もある<sup>20)</sup>。岡村ら<sup>21)</sup>は、その要因を分析し、解決策を示した。更に、佐渡は面積が広いと、奄美大島など他の島のように、訪れた人に島としての特別感を与えることも難しい。そこで、佐渡をいくつかの地域に区切って、その特色を活かした観光開発を検討して、日常と異なる非日常を演出することによって、また訪れたいというリピータを増やす方策を検討する。

- ・佐渡にインバウンドを呼び込む方策  
インバウンドが用いる各種旅行サイトの評価やガイドブックの記述などを分析し、更

に推進する点と課題を明確化

- ・特色ある佐渡を作る将来に向けての方策  
観光において大きな位置を占める交通システムについて、佐渡を観光資源などの特色から4つの地域に分けて、特色に合わせた交通システムを検討
- ・登録済み世界遺産との比較  
既に世界遺産に登録されている地域について、登録するための経緯や要件などを具体的に検討。また、世界遺産登録によって、観光など地域活性化にどのように活かされたのか、また課題などがあれば合わせて検討し、佐渡の場合と比較
- ・関連地域との比較  
インバウンドの呼び込みやリピータの獲得など各種観光による地域活性化の成功事例を分析し、佐渡の場合と比較することによって、佐渡への活用方法を検討

**提案**

そして、上記の内容でモジュールとユニットを構築するため、授業の概要も含めて提案した。また、モジュール、ユニットの中で各授業が占める役割を明らかにするため、各授業とモジュール、ユニットとの関係を示した。

**今後の展開**

今後、「世界遺産登録」ユニットについては、実際に世界遺産登録を行っている県庁の部署と連絡を取るなどして、直面している課題を明らかにすると同時に、その課題の解決方法を検討して、世界遺産登録に向けて、より具体的な要件や提案を行う予定である。また「観光」ユニットでは、更に多くの登録済み世界遺産を訪れ、世界遺産登録までの苦労やそれを乗り越えた方策、更には世界遺産登録が観光をはじめとする地域活性化に及ぼした影響を世界遺産登録直後だけではなく数年経過した後についても分析を進め、佐渡の世界遺産登録後の観光による地域活性化の方策などを検討する予定である。現在のところテーマとして、佐渡にくることによって日常から脱して非日常を感じてもらい、一度だけではなく何度もリピータとして佐渡を訪れてもらうための方策を他の地域とも比較しながら検討して行く予定である。

## 結語

本稿では、著者らが今までに行った卒業研究を「佐渡の地域活性化」という統一したテーマにまとめることによって、モジュール化することを試みた。上記モジュール化を行うに当たって「佐渡の世界遺産登録」と「観光」という 2 つのユニットを提案し、今までの個別の研究を時系列、内容、時系列に内容を加味した 3 つの観点からまとめたものを示した。また、それぞれのユニットのポイントについても明らかにし、今後の方向性を示した。そのまとめとして、本稿で言及した 6 つの研究を授業としてユニット及びモジュールに組み入れるための提案を行った。

本稿では、新潟県立大学のある新潟県の「佐渡地域」を例に、「佐渡の地域活性化」をテーマにユニット・モジュール化についての具体的な提案を行った。ユニット・モジュール化は、今後大学の役割のひとつとしてますます求められることが予測される社会人のリカレント教育に重要な役割を果たすものと考えられる。このような状況を踏まえて、今後、キャリア教育や職業教育に資するため、更に具体的かつ効果的に項目についての検討を行って行けるように内容を精査して行く予定である。

## 謝辞

単位が授与されない 3 年時のプレゼミの時代から真摯に研究に取り組んでくれた学生諸子にこの場を借りて感謝の意を表します。

## 文献

- 1) 長崎大学. モジュール方式による教育とは. <http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/innovation/change/module/mind/index.html>. (参照 2018 年 9 月 22 日).
- 2) 明治大学. 履修モジュール. <https://www.meiji.ac.jp/infocom/curriculum/module.html>. (参照 2018 年 9 月 22 日).
- 3) 東京外国語大学. 言語モジュール. <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/index.html>. (参照 2018 年 9 月 22 日).
- 4) 福島大学. 教員養成のためのモジュール型コア教材開発.

- <https://www.fukushima-u.ac.jp/university/public-matters/gp/core.html>. (参照 2018 年 9 月 22 日).
- 5) 岡山大学経済学部. ユニット・モジュール制. [http://www.e.okayama-u.ac.jp/course/afternoon/unit\\_module/](http://www.e.okayama-u.ac.jp/course/afternoon/unit_module/). (参照 2018 年 9 月 22 日).
- 6) 文部科学省. 平成 27 年 新たな高等教育機関の教育内容・方法について (議論のためのメモ). [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo13/gijiroku/\\_icsFiles/afieldfile/2015/10/30/1363280\\_04.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo13/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2015/10/30/1363280_04.pdf). (参照 2018 年 9 月 22 日).
- 7) 吉田有美香. 世界遺産に関する一考察 ―名称・分布・登録プロセスなどからの分析―. 新潟県立大学国際地域学部卒業論文 2017.
- 8) 小嶋寧々、高原尚志. 佐渡における欧米人観光客向けの観光コースに関する一考察. 新潟人間生活学会 第 7 回大会 (ポスターセッション) 2106.
- 9) 小嶋寧々、高原尚志. インバウンダーに向けた佐渡の観光資源に関する一考察. 国際地域研究学会 第 7 回研究大会 (ポスター発表) 2016.
- 10) 小嶋寧々. 利用者のニーズから見た観光に関する分析と評価. 新潟県立大学国際地域学部卒業論文 2017.
- 11) 藤井美智瑠、高原尚志. 佐渡を活気ある観光地にするために ―交通システムから考える―. 国際地域研究学会第 7 回研究大会 (ポスター発表) 2016.
- 12) 藤井美智瑠. 佐渡を活気ある観光地にするための一考察 ―交通システムから考える―. 新潟県立大学国際地域学部卒業論文 2017.
- 13) 井上春菜、高原尚志. 金沢の観光地における欧米人と日本人の評価の違い. 第 8 回新潟人間生活学会学術大会 2017.
- 14) 井上春菜、高原尚志. 金沢における海外からの旅行者を意識した観光資源. 国際地域研究学会第 8 回研究大会 2017.
- 15) 高辻春菜. 観光資源としての兼六園の評価 ―外国人観光客の視点から―. 国際地域学部卒業論文 2017.
- 16) 千代佳澄. インバウンドを意識した観光拠

点の研究～名古屋市と群馬県を例にして～．国際地域学部卒業論文 2017.

17) 大橋楓、山崎彰子、高原尚志．佐渡の世界遺産登録に向けての一考察．第9回新潟人間生活学会学術大会 2018.

18) 上野杏沙、高原尚志．世界遺産・富岡製糸場の特色の研究．第9回新潟人間生活学会学術大会 2018.

19) 高原尚志．目標を提示した授業の実践－佐渡の世界遺産登録に向けて－．日本教育工学会

第34回全国大会講演論文集 2018; 769-770.

20) 小室充弘．世界遺産を活用した観光振興のあり方に関する研究．運輸政策研究 2014; 17(2): 70-74.

21) 岡村薫，福重元嗣．リピーター観光客育成に向けた観光プロモーション策．財団法人関西社会経済研究所 2007; 10: 1-35.

## ABSTRACT

### Building a Lecture Group for a Theme: A Module on a Region Development of Sado

Hisashi Takahara<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> Department of International Studies and Regional Development, Faculty of International Studies and Regional Development, University of Niigata Prefecture

\* Deceased 25 December 2018

Today, most universities offer educational programs through modules. In this paper, the word “module” refers to a short education program comprising a group of lectures delivered on a specific theme. A memo issued in 2015 by the Central Education Council in Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology suggested that modules should be used for recurrent, career, and professional education programs. The use of modules is very important especially because working students are generally pressured for time. With the help of modules, they can study specific themes over short periods of time. Therefore, in this paper, each student’s research is summarized and rebuilt as a module on the regional development of Sado. This answers the challenge of rebuilding past research in the form of educational modules.

**Key Words:** Registration to world heritage list, Sado, Regional development, Recurrent education, Education module